

第7章 腹膜透析

1. 腹膜透析の現況

施設調査票の集計によると、2022年末の腹膜透析（peritoneal dialysis: PD）患者数は、10,531人であり、2018年末と比べて1,086人増加した。その内訳は、PD単独患者数が8,393人、HD（F）との併用患者数が2,138人であった（表6）。

PDとHD（F）併用の患者はPD患者全体の20.3%を占めている。HD（F）併用回数は週1回が1,906人と大多数であり、2回が134人、3回が27人、それ以外の併用が71人であった。

2022年にPDで新規に透析導入した患者数は、施設調査票の集計では2,237人であり、2018年報告の2,293人から微減していた。

表6 腹膜透析（PD）患者数およびPD導入患者数の推移（2018～2022）

年		2018	2019	2020	2021	2022
PD単独施行		7,582	8,017	8,188	8,371	8,393
PDと HD（F） 等の併用	PDと週1回のHD（F）等の併用	1,621	1,675	1,882	1,893	1,906
	PDと週2回のHD（F）等の併用	142	128	165	138	134
	PDと週3回のHD（F）等の併用	30	30	31	25	27
	上記以外の併用	70	70	72	74	71
	小計	1,863	1,903	2,150	2,130	2,138
PD患者総数		9,445	9,920	10,338	10,501	10,531

年		2018	2019	2020	2021	2022
PDで新規導入した患者数（人）		2,293	2,657	2,481	2,370	2,237

（施設調査による集計）

患者調査票による集計では、年齢と性別についてPD患者10,034人から回答があった。男性は6,590人（65.7%）、女性は3,444人（34.3%）、PD患者全体での年齢は64.66±14.84（平均±標準偏差）歳で、男性は64.68±14.21歳、女性は64.62±15.97歳であった（補足表47）。PD患者の平均年齢は2018年報告の63.84歳から0.82歳増加していた。2022年PD単独患者8,071人の平均年齢は65.36歳で、PD+HD（F）併用患者1,963人の平均年齢61.78歳と比較し、3.58歳高かった（補足表48、49）。

PD歴と性別については、PD患者6,898人から回答があった。PD患者全体の平均PD歴は38.20ヵ月、男性で36.84ヵ月、女性で40.75ヵ月であった（補足表50）。PD単独患者8,071人のうち、現在施行中のPD歴、性別について5,529人から回答が得られた。PD単独患者の平均PD歴は全体で31.11ヵ月、男性で29.36ヵ月、女性で34.16ヵ月であった。PD歴24ヵ月未満の患者が最も多く、全体の50.0%、男性の51.7%、女性の47.0%を占めていた（補足表51）。PD+HD（F）併用患者1,963人のうち、1,369人から、PD歴、性別の回答が得られた。PD+HD（F）併用患者の平均PD歴は、全体で66.86ヵ月、男性で63.60ヵ月、女性で75.18ヵ月であり、男女ともPD単独患者より長かった（補足表52）。

表7 腹膜透析患者 2022年中の腹膜炎発症率（回/年）と性別，2022

性別	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明	記載なし	総計	平均	標準偏差
男性 (%)	3,744 (87.0)	403 (9.4)	98 (2.3)	27 (0.6)	13 (0.3)	18 (0.4)	4,303 (100.0)	0	2,287	6,590	0.21	0.70
女性 (%)	2,032 (88.2)	209 (9.1)	42 (1.8)	11 (0.5)	6 (0.3)	5 (0.2)	2,305 (100.0)	0	1,139	3,444	0.18	0.65
合計 (%)	5,776 (87.4)	612 (9.3)	140 (2.1)	38 (0.6)	19 (0.3)	23 (0.3)	6,608 (100.0)	0	3,426	10,034	0.20	0.68
記載なし (%)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0	0	0	0	0
総計 (%)	5,776 (87.4)	612 (9.3)	140 (2.1)	38 (0.6)	19 (0.3)	23 (0.3)	6,608 (100.0)	0	3,426	10,034	0.20	0.68

* 個々の患者の腹膜炎発症率（回/患者・年）は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

* 患者毎の腹膜炎発症率の平均値が腹膜透析患者全体の腹膜炎発症率を表している訳ではないことにご注意ください。

（患者調査による集計）

2022年の腹膜炎発症率は下記の計算式によって算出した。

2022年の腹膜炎発症率（回/患者・年）＝2022年中の個々の患者の腹膜炎罹患回数÷（2022年中の個々の患者のPD実施月数÷12）

2022年PD患者10,034人のうち、2022年中の腹膜炎罹患回数と2022年中のPD実施月数について6,608人から回答が得られ、腹膜炎発症率は腹膜透析患者全体で0.20回/患者・年であった。この値は、2022年に改訂された国際腹膜透析学会(International Society for Peritoneal Dialysis: ISPD)腹膜炎ガイドラインに関する勧告における、発症率に関して推奨される目標値（0.40回/患者・年）を大きく下回っている。

2022年中に一度も腹膜炎を発症しなかった患者は5,776人（87.4%）であった。2022年中に腹膜炎を1回のみ発症した患者は612人（9.3%）、複数回以上の腹膜炎を発症した患者は220人（3.3%）であった（表7）。